

## ■ 中西竹蔵の記録

国立公文書館 アジア歴史資料センター（デジタルアーカイブ）の記録から /

大倉信明 2013年1月18日

### 1 海軍省-公文類纂-M5-13-85（所蔵館：防衛省防衛研究所）

明治5年9月19日~明治5年9月24日(造船局)

「戊5号大日記 造船局申出 稲木嘉助外8名付属採用の件」

戊第一千三十一号 足柄県管下 伊豆国伊東湯川村 稲木三郎右衛門 木工 十二級 稲木嘉助 当時鉄砲洲船松町一丁目地守平吉方寄留 小倉県卒五味平太郎 木工 十二級 小西幸吉 当時本八丁堀永島町 柴田吉次郎方寄留 東京府管下 上野平三郎 木工 十五級 上野倉吉 当時靈岸嶋東港町一丁目二十三番地 丑五郎方寄留 香川県管下 讃州塩飽島広島茂浦 帆縫 十六級 岡信次郎 当時新桜田町二十番地 大川和介方寄留 香川県管下 同高見嶋 帆縫 十六級 中西竹蔵 当時鉄砲洲湊町一丁目寄留 東京府管下 第五大区小五ノ区 佐々木長二郎配下 浅卓三軒町四十四番地 鋳物職 十三級 已之吉 東京府管下 第一大区小十六ノ区 森弥五兵衛配下 靈岸嶋東湊町十二番地

### 2 海軍省-公文類纂-M5-7-79（所蔵館：防衛省防衛研究所）

明治5年9月27日(造船局)

「届之部 造船局届 稲本嘉助以下8名付属申付達方」

十二級 稲本嘉助 十二級 小西幸吉 十五級 上野倉吉 十六級 岡信次郎 十六級 中西竹蔵 十三級 古宮已之吉 十三級 熊本為吉 十四級 黒田徳次郎 書面之通り本日付属申付候間此段及御届候也 申九月二十七日 造船局 秘史局

### 3 海軍省-公文類纂-M5-13-85（所蔵館：防衛省防衛研究所）

明治5年9月24日(海軍省)

「第5号送達大日記 足柄外8県へ達 稲木嘉助外8名付属採用の件」

一千四百四十八号内 足柄県管下 伊豆国伊東湯村 稲木三郎右衛門 稲木嘉助 右当省へ採用致度候条差支無之候ハ、来ル二十七日第十石川嶋造船局江出頭候様可被相達候也 壬申九月二十四日 海軍省 足柄県 追テ当時鉄砲洲船松町一丁目地守平吉方二寄留罷在候趣二候此段心得トシテ申添候也 小倉県卒 五味平太郎 小西幸吉 前書文言 壬申九月二十四日 海軍省 小倉県 追テ当時本八丁堀永島町柴田吉次郎方二寄留罷在候趣二候云々 香川県管下 讃州 広嶋茂浦 岡信次郎 同高見嶋 中西竹蔵 前同文言 壬申九月二十四日 海軍省 香川県 追テ信次郎 当時新桜田町二十番地大川和介方寄留竹蔵ハ当時鉄砲洲湊町一丁目二寄留罷在候趣二候云々 東京府管下 上野平三郎 靈岸嶋湊町一丁目二十三番地丑五郎方寄留

4 海軍省-公文類纂-M5-13-85 (所蔵館:防衛省防衛研究所)

明治5年9月27日(香川県)

「乙第3号大日記 香川県届 稲本嘉助外8名付属採用の件」

乙第八百十三号 当県管下 高見嶋 中西竹蔵 右之者御省へ御採用有之趣ヲ以差支無之候ハ、今二十七日第十石川嶋造船局へ出頭候様御達ニ付及其作配候所同人義ハ当時東京府平民へ入籍ニ相成候段申出候且區別之義ハ当人ヨリ直ニ造船局へ御届仕筈ニ候間此段一応御届仕候也  
壬申九月二十七日 香川県 海軍省 御中

5 海軍省-公文類纂-M6-4-126 (所蔵館:防衛省防衛研究所)

明治6年8月1日~明治6年8月3日(主船寮)

「諸届留 主船寮届 木村辨蔵外58名付属差免の件」

届第五百九号 付属 木下弁蔵 富永安兵衛 徳富虎吉 池田重次郎 徳永三吉 稲木嘉助 竹花藤吉 石井三之助 安田瀬次郎 松原弥太郎 山口市内 柴田勤吉 小川彦太郎 矢部栄次郎 小林松五郎 府川忠吉 今村辰男 長谷川清三郎 態本為吉 中西竹蔵 古宮己之吉 中村次郎吉 児玉実治 小島勝次郎 黒田徳次郎 中尾伝八 中山安五郎 下坂昆吾 榊原忠吉 島海金次郎 三橋文次郎 冬木鉄五郎 長島作蔵 渡辺万次郎 鈴木金蔵 津山実平 浜谷善吉 長谷川弥助 清永徳兵衛 岡田猪之助 森田市蔵 岡信次郎 尾崎久三郎 高橋市太郎 西木五三郎 小林常吉 猪俣助次郎 長友喜蔵 滝沢惣次郎 朝比奈忠八 谷本仙吉 平野庄次郎 阿部吉十郎 佐藤善吉 辻本勘兵衛 中西幸吉 渡辺福次郎 丸山芳五郎

---